

しんあい

発行日：平成26年10月1日

- 特別養護老人ホーム裕生園
- ケアハウス シャトル
- グループホーム たちばな
- きんかん 小規模多機能ホーム
- 養護老人ホーム 長寿園

〒880-2221

宮崎県宮崎市高岡町内山 2407-3

TEL.0985-82-0196(代)

メールアドレス

sin-ai-kai@sin-ai-kai.jp

発行：社会福祉法人 信愛会 ホームページ <http://www.sin-ai-kai.jp>

第
27号



高岡デイサービスセンター

平成26年4月から社会福祉法人信愛会が宮崎市より指定管理を受託しました。長年にわたって高岡地区の在宅福祉の中心的役割を担ってきたデイサービスセンターです。

高岡老人福祉館「百寿荘」

高岡デイサービスセンターに隣接する無料の入浴サービス施設。こちらも信愛会の指定管理となりました。築40年と古いですが、利用は年々増えていて、その存在意義はむしろ高まっています。



しんあいさつ



社会福祉法人信愛会
副理事長
辰元 圭子

すっかり地域交流の場となった当グループの夏祭り・花火大会も事故もなく終わりホッとしております。この夏祭り・花火大会も、前理事長が「ここでの終末ケアに関わる病院・施設で亡くなった人々の供養のために花火を上げる」と言っていた事をあらためて思い出しながら、夜空に浮かぶ花火を見上げる事でした。この夏祭りが、地域との交流、利用者・家族・職員の一体感(チームワーク)を育てる場となっている事と思います。業者・警察署・消防団・地域の住民のご協力、それに職員の頑張りに感謝しております。本当に皆様ありがとうございました。

最近の日本の天候は荒々しさが増してきています。昨年の猛暑の記録更新に引き続き、今年も関東甲信越地方に春先にはか雪が降り、北海道の三十七・八度の暑さ、竜巻、四国全域及び広島県の大雨そして土砂災害と、次々に自然災害が起こりました。災害が起こるたびに国の税金が復興のために使われますので、国の財政はますます厳しくなります。私達の事業も年々厳しくなる事と思いますが、高齢者の人口は増える一方、労働人口は減って行きますので、今後、この現状をどう乗り越えるか？頭の痛い事です。

第二次安倍改造内閣が発足し、経済再生に関しては地方の再生がなければならないという事で、地方の魅力を引き出し活性化するという「地方創生」がスローガンのようです。

夏も終わろうとしている時に、今度は「デング熱」の蚊の発生に戦々恐々としています。せめて地方に住む私達は「マダニ」や「蚊」に刺されない様に気を付けましょう。

高岡デイサービスセンター及び 高岡老人福祉館「百寿荘」の指定管理がスタート

平成二十六年四月一日から社会福祉法人信愛会は、宮崎市高岡デイサービスセンター及び宮崎市高岡老人福祉館「百寿荘」の指定管理を受託することになりました(表紙の写真参照)。平成二十五年八月に宮崎市から両施設の指定管理者の募集があり、信愛会を含めて2法人が応募。宮崎市の選定委員会による選定、市議会の承認を経て、信愛会が指定管理者として委嘱されることになりました。指定管理期間は3年間です。

両施設とも高岡地域で長年、地域に根ざした福祉サービスを展開して来ました。国が「地域包括ケアシステム」の構築に向けて本格的に動き出した現在、この2施設が信愛会のネットワークに加わった意義は大きいものがあると思います。これまで以上に緊密に連携を取り、地域住民の福祉ニーズにきめ細かく対応して参ります。

ところで、この高岡デイサービスセンター及び百寿荘は、明治の日本の海軍医で脚気の撲滅に大いに功績があり「ビタミンの父」と呼ばれている高木兼寛の生誕地のすぐそばにあります。高岡が生んだ明治の偉人が大変身近になった気がします。



高岡デイサービスセンター及び百寿荘の近くには高岡出身の“ビタミンの父”高木兼寛の生誕地があります



生誕地近くには、高木兼寛を記念したほくえん 穆園広場があり、高木兼寛の銅像が立っています

職員の表彰相次ぐ

平成二十五年度は信愛会職員の表彰が相次ぎました。

十一月には、裕生園管理栄養士の松浦玉子さん、グループホームたちばな管理者の長友美紀さんが、永年にわたる社会福祉事業への貢献により、厚生労働大臣表彰を受賞しました。そして十二月二十六日、宮崎市役所本庁舎において伝達式が行われ、戸敷宮崎市長より賞状と記念品が手渡されました。

その他にも、九州社会福祉協議会連合会表彰を三名の職員が、宮崎県社会福祉功労者等に対する県知事表彰を四名の職員が、そして宮崎県老人福祉サービス協議会会長表彰を二名の職員が、それぞれ受賞しました。社会福祉事業に対するみなさんの永年の貢献に対し敬意を表するとともに、今後ますますの活躍を期待いたします。



宮崎市役所にて戸敷宮崎市長から厚生労働大臣表彰が伝達されました(平成25年12月26日)



市長と一緒に記念撮影 一番右端が松浦玉子さん、その隣りが長友美紀さん

特別養護老人ホーム 裕生園

餅つき大会

みんなで餅をついて新年を迎えます。



夏祭り

地域の老若男女が集う一大イベントです。



運動会

心はずむと
体も自然に
動きますね！



明るく楽しい 園生活

特養裕生園のスナップ写真より

のど自慢 大会

ホール全体が
音楽に包まれました。



クリスマス会

サンタからのプレゼント。
良かったですね！



ケアハウスシャトル

『福祉従事者として』



ケアハウスシャトル
生活相談員
小田剛士

生活相談員として約三年間在籍し、職員を始めご家族の方や各関係者の方など多くの方々に助けて頂きました。誠にありがとうございますございました。新天地でもこれまで培ってきた経験を活かし、これからも精進して勤めて参りたいと思います。

さて、平成二十六年より社会保障費の財源不足を補うため消費税が8%に増税されました。この社会保障の財源不足の原因の一つが現在の超高齢化社会です。これは単に高齢者の割合が増えたからだけではなく、それに伴い介護を必要とする高齢者も増えたからです。

政府としても財源を補うために対策として、平成二十七年度から特別養護老人ホームへの入所が介護度3以上からとなります。また、一定以上の年金所得のある方は、介護保険サービスの利用料負担が1割負担から2割負担へ変更されます。一部の入居者の方には負担が多少なり増える事となります。私たち福祉に従事する者にとって、今まで以上に世間から質の高いサービスを求められると思いますし、一段と厳しい目を向けられると思います。

人生の先輩たちを支えていく事は、私たち福祉に従事する者として当然の義務だと思えます。これからも世間の皆様に背を向ける事のないよう、清く正しく社会的倫理を遵守すると共に、様々な顧客のニーズに対応出来るよう各職種と連携を取りながら、職員一同協力して安全で安心できる施設づくりを目指していきたいと思えます。

『ケアハウス シャトル』の相談員として今年の四月より異動となりました。『特別養護老人ホーム裕生園』では平成十九年一月より介護職として約五年間、また



ファミリーレストランにて



素晴らしい生花が出来ました



たまには豪華に(^-^)



敬老会にて



クリスマス会にて

グループホーム たちばな

ごあいさつ



グループホーム
たちばな
管理者

谷口順子

平成二十六年四月一日
付でグループホームたち
ばなの管理者に就任いた
しました。

前管理者の長友美紀さ
んは、グループホームた
ちばな設立当初より今の
グループホームの土台を

築いて来られ、利用者の方がその人らしく安心して暮らせる場
所を作り、職員一同が一丸となって頑張つて来られた方です。
今の私があるのは、長友さんのお陰であると感謝しております。

私は、平成十四年八月一日に入職し、認知症の理解に乏しく
試行錯誤を繰り返してまいりました。そんな中、多くの研修に参加
させて頂き認知症の理解を深めると共に、利用者の気持ちを探
知できるようになり、安全、安楽な日々を過ごして貰える様心
掛けてまいりました。平成二十二年四月より2号館のリーダーとし
て利用者がその人らしく暮らしができる様に自立度を下げない
目標を掲げ、2号館の職員に助けられながら共に頑張つて来ま
した。

今回、人事についてお話があった時、正直、責任の重さに耐
えられるかどうか悩みましたが、副理事長より温かいお言葉を
頂き、これまでのグループホームを守り、又それぞれのユニッ
トの良さを活かしながら、統一したケアができる様、3ユニッ
トの職員が助け合いながら利用者一人一人がその人らしく満足
して日々暮らせる様なケアをしていきたいと思いました。以
前、副理事長もおっしゃった様に職員の笑顔は大切です。皆が
笑顔で仕事ができる様、日々、精進してまいります。

最後になりましたが、まだまだ未熟な私ですので、今同様の
御協力を頂き職責が全うできます様、宜しくお願い致します。

● たちばな3号館



月知梅の花よりも鮮やかで
今が一番の見どころですネ!!



八紘台を背に優雅で勇まし
いですよ!!

● たちばな1号館



3月に行われた、ふれあいレク
レーションでは家族参加の元
風船バレー大会を行いました。
残念ながら優勝は逃しました
が頑張ったで賞を頂きました。



又、4月1日で入所者8名揃
いました。個性豊かなメンバ
ーで毎日笑顔で過ごしたい
と思います。

● たちばなデイサービスセンター



リハビリ体操で元気はつらつ!!



一里山に芝桜見学に行きまし
た!満開の芝桜の前でポーズ!!

● たちばな2号館



4月に新しい方も入り、全員
揃って撮りました。



お正月は各号館集まってみん
なで餅つきをします。

きんかん小規模多機能ホーム

『介護サービスを提供する者として』



きんかん
小規模多機能ホーム
管理者
介護支援専門員
黒木 淳

高齢者介護の仕事に初めて就いてから十二年が経過しました。当初勤務していた特別養護老人ホーム裕生園には色んな利用者の方々がいらっしやいます

た。時には叩かれたり、摘ままれたり、まるで兄弟げんかのような。でも、振り返ると楽しかったことしか思い出しません。利用者の生活をどう支えていくことが出来るかを職員や家族と考え、実践して、結果を得て、利用者の笑顔につながると、本当に嬉しいものでした。

小規模多機能ホーム『きんかん』へ勤務して思うのは、利用者といっぱい遊びたいな話したいなと思うのです。いっぱい遊んで、バカ話をして「あく楽しかった」と言って帰って頂けたら最高じゃないでしょうか。楽しくなければ、来たくないだろうし、魅力のない施設と言えるのではないですか。

『きんかん』では、毎日レクリエーションを企画して、ドライブやゲーム、脳トレなどに参加していただいています。いつでも笑い声が聞こえてきます。

私たち介護者が望む生活は、安全で、安心な生活をと考えがちですが、本来はもっとシンプルに“楽しい生活”が求められているのではないのでしょうか。一人ひとり性格が違うように、楽しさの感じ方も違うので、それぞれに応じた楽しみ・楽しさを提供することの難しさに悩むことがあります。利用者の皆様が楽しんで頂けたらいいと考えています。

現在は、いろんな種類の介護サービスが提供されています。『自宅にいつまでも居たい』とほとんどの方は思われると思います。その希望を現実化していけるように、ご家族、医療、地域との連携を図りながら、利用者を見守りながら支えていきたいと思えます。

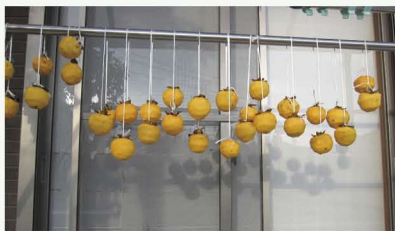
ドライブと地域行事参加

ドライブでは、シーガイアや平和台公園、綾町、国富町、田野町など宮崎市近郊の面白そうな場所、懐かしの場所などに行って楽しんでいただいています。また、神武さまや、浮田地区での神楽など地域である催し物に参加しています。



季節の催し

季節を感じていただくため、春には花見、夏にはスイカ割りやそうめん流し、秋には干し柿作りなどしていただいております。



日常生活風景

園内の花や壁飾りは、利用者の皆さんに作ったり、手入れしていただいたりしています。また、災害への備えのため、地域の皆様に協力していただき、防災訓練も行いました。



養護老人ホーム 長寿園



初詣
(宮崎神宮にて)



家族と花壇作り



料理クラブ
(あんまん作り)

長寿園 明るく楽しい 施設生活



『最高齢』利用者は今年で103歳



園外ドライブ
(綾馬事公苑にて)

長寿園職員二名が県老サ協から
永年勤続表彰を受賞しました。



長寿園
主任生活相談員
仲武 純治

長寿園
主任支援員
河野 哲史

平成二十六年二月六日の宮崎県老人福祉サー
ビス研究大会において、会員として十年以上の永
年勤続者に対して、表彰が行われました。今回は、
長寿園主任生活相談員の仲武純治さん、長寿園主
任支援員の河野哲史さんが表彰されました。

(受賞者から一言)

「黒棒」や「雪の宿」の様に愛される職員になり
たいです。これからも頑張ります。(利用者が購入
しているお菓子で、長寿園では根強い人気がある)
長寿園は昨年四月に宮崎市浮田地区に新築移
転を行い、新たなスタートを切ったばかりで、この
表彰は嬉しい知らせとなりました。

他の長寿園職員もこの賞を受賞できる様、日々
の業務にまい進していきたいと思えます。本当にお
めでとうございます。

しんあい歌壇

毎月一回、ケアハウスシャトルで行われている短歌会で発表された短歌の中から、いくつかをご紹介します。作者は、シャトル、裕生園及び信愛園の入居者の方々です。(氏名五十音順)



ダイケアのゲームで爆笑冬の午後

師走の風も暖かくなり

黒木 チヨ

老いた今人の優しさ身にしみる

お手玉作りに精を出しおり

黒木 チヨ

春雨にうたれさくらの身の上を

あわれと思いにじつと見上げる

田口 利昭

花園に囲まれながら生れし我

八十五の坂を登り始める

田口 利昭

さつき晴れ年の差忘れて競技する

運動会はとても楽しい

二宮 裕子

冬の夜は静かに更けて時折に

戸をうつつ雨の音のさびしき

二宮 裕子

飛行雲白く走るを見て憶う

空うつ弾丸を造りし昔を

花田 暢子

天国のあなたの米寿年越の

そばすすりつつ心で祝う

花田 暢子

澄み渡る夜空の月が鏡なら

逝きにし人を映して欲しい

松本 マサ

知らぬ間に春の足音聞こえてる

今に野山も花盛りかな

松本 マサ

丹精しやつと咲きたるバラ二輪

ゆく方知れず愛しかりけり

森田 琢恵

別れるは世の常のこと「受けし恩は忘れるな」と母

重く受けとむ

森田 琢恵

明治から平成にかけすこやかに

誕生むかへ一〇二才になる

吉川 ウメ

シャトルにてはや一年をすこしけり

規則正しくますます元気

吉川 ウメ

祭りきた心うきうき酒かわす

たがいの中に花が咲くかな

米澤 義光

盆くれば花をたずさえ墓まいり

父母のおもかげ瞼の中かな

米澤 義光

『ひこぼえ』第一〇一号〜第一一六号のなかから『しんあい』編集部が選びました。



編集後記

『しんあい』第二十七号の発行が遅れました事をお詫び申し上げます。この『しんあい』は、社会福祉法人信愛会に関わるニュースや日々の施設生活の様子を年一回の頻度でお知らせするものですが、法人内の事業所の数が次第に増えて来たことで、原稿を取りまとめるのに時間がかかるようになって来ました。各事業所で忙しい時期が異なっているからです。今号も何とか発行にたどり着きました。後から振り返った時に、あの年はあんなことがあったなあ、という思い出の記録になりますので、今後も継続して行きたいと思えます。

『しんあい』のバックナンバーは信愛会のホームページで見ることができます。 <http://www.sin-ai-kai.jp>